

スズキ
鈴木 あるの 教授

工学部 建築デザイン学科

■ 研究業績等

【所属学会】

- ・日本建築学会：2008/04～
- ・建築研究開発コンソーシアム（学術会員）：2018/06～

【論文】

- ・学術論文 「建築入門授業に対する一般学生からの反応の計量テキスト分析」 京都橘大学研究紀要 京都橘大学 48:161-171 (単著)：2022/02
- ・学術論文 「大学教養課程における建築教育の試み」 日本建築学会建築教育研究論文報告集 (第19号) :pp.41-47 (単著)：2019/11
- ・学術論文 「Cross Cultural Education in Architecture: Findings from Teaching International Students Traditional Japanese Architecture and Gardens」 Selected Papers for International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Road Vol.2:pp.175-183 (単著)：2013/03

【講師・講演】

- ・Fast-Forward: What's Next for European Higher Education? (Berlin)：2019/11
- ・Material, Structure and Environment of Japanese houses (Kyoto)：2013/05
- ・Educational Experiments in California: Revisiting the Meaning of Japanese Gardens (Kyoto)：2002/09

【教育】

- ・京都橘大学一般教養科目「知へのマインドセット」のうち「建築学で住まいを考えよう：安全で快適な家とは？」：2021～
- ・京都大学全学共通教育科目 I L A S セミナー「住宅と不動産のリテラシー」：2016～2020

【科研費・外部資金等】

- ・大学教養課程における住教育の可能性 (代表) 基盤研究 (C)：2020/04～

【受賞学術賞】

- ・第17回建築・住宅技術アイデアコンペ審査員奨励賞 (一般大学生のための建築・住宅技術教育)：2020/02
- ・European Association of International Education: Best poster winner, in innovative international higher education (Academic Calendar Worldwide at a glance: Find the best time to offer your programs)：2019/09
- ・第15回建築・住宅技術アイデアコンペ 優秀賞 (「建築・住宅が長く活用されるために～建築文化と技術のコラボレーション～」)：2018/02

キーワード

防災 建築材料 住宅産業 建設業 施主 教養教育

対応可能なもの ■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談(学術指導) ■ 学術調査 ■ コメンテーター ■ 共同研究・受託研究

建築と住宅の知識をすべての人に

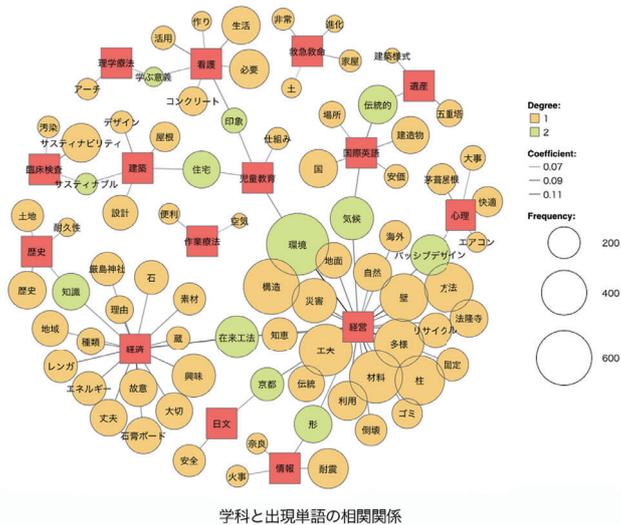
研究の概要

住宅は人生の中でも特に大きな買物であり、食や衣と並び、人々の命を守る大切なものです。その住宅の選び方について、消費者はどれほどの知識をお持ちでしょうか。せっかく情報が届いても、わかりにくい点が多いのではないのでしょうか。また皆さんの住むための器であるが、建築家の「作品」で良いのでしょうか。建築や工学を専門としない一般の人々も、住宅に関する技術のある程度理解し、適切に判断し選択する必要があるのではないのでしょうか。小中高における住教育に関しては、既に多くの研究や実践がなされてきました。しかしなかなか教育啓蒙は進んでいません。そこで私は、これまであまり考えられてこなかった、大学という場所に着目しました。大学のリソースを活用し専門外の一般学生あるいは社会人に向けた建築入門講座を実施する可能性について探っていきます。

研究の詳細

■ 研究・技術のプロセス ■ 研究事例 ■ 研究成果 ■ 使用用途・応用例 ■ 今後の展開

これまで、ハウスメーカー・設計事務所・テベロッパーといった業界の専門家達と研究会を結成し、「何を伝える必要があるか」について定期的に議論してきました。また国内外の大学においてどのような住宅関連科目が提供されているかを調べています。同時に一般学生や一般消費者にアンケートを取り、何に興味があり、何がわからないのかを調査しています。さらにそれらの結果を取り入れつつ定期的に授業を実践し、受講者からのフィードバックを統計的に分析しています。今後は海外の事例を収集します。最終的には、日本において実行可能な一般社会人向け住宅教育カリキュラムを作成します。住宅購入者や施主が賢くなることにより、ミスマッチ、見当違いなクレーム、理不尽な価格競争といった不幸な出来事が減り、業務が円滑になります。それにより、住宅業界の技術や質もさらに向上することでしょう。



学科と出現単語の相関関係



専門分野系と関心テーマの相関関係

産学官連携先に向けた
アピールポイント

住宅建築の提供者にはそれぞれに特色や強みがあります。それを消費者が正しく理解し選択できるようになれば、各企業様の営業活動にも資することができ、また行政が抱える課題も低減されるでしょう。企業様における説明会や講習会と連携してさらなる研究および情報交換ができれば、この研究はさらに有意義なものとなるでしょう。